

「体験の風キャンプ in ゆーすぴあ（旭川編・冬編）」事業報告書

1 事業実施の背景

平成 25 年 1 月 2 日中央教育審議会答申「今後の青少年の体験活動の推進について(答申)」の中で「青少年の生きる力を育む体験活動の重要性が高まる中、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、青少年の体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘がある」ことが述べられている。

また、平成 26 年 8 月 29 日閣議決定「子どもの貧困対策に関する大綱」の中では、多様な体験活動の機会の提供を行うこととされ、「独立行政法人国立青少年教育振興機構が設置する国立青少年教育施設において、児童養護施設等の子供を対象に、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動の場を提供するとともに、その成果を広く全国に周知することを通じて、各地域における取組を促進する」とされている。

これを受けて、国立青少年教育振興機構のミッションの一つとして、児童養護施設、母子家庭等（以下、「施設」という）における児童・生徒に対し体験活動の場を広く均等に提供し、自己肯定感の向上、生活習慣の改善等につながる事業の展開を行うため、今回の事業を実施するものである。

なお、前記の大綱の中でも謳われているように、成果の普及を図る必要性から、事業における事前・事後のアンケートの実施により成果を具体的な指標として測れるように計画した。

2 事業趣旨

道内の母子生活支援施設の子供を対象に、自己肯定感、生活習慣の改善等につながる多様な体験活動を提供し、その成果を広く周知することを通して、母子生活支援施設の取組を促進する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 事業概要

- ・期日 平成 29 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）（1泊2日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 社会福祉法人旭川隣保会母子家庭生活支援施設 旭川隣保会トキワの森
- ・募集 20 名（小学校 3 年生～高校 3 年生：18 名、引率者：2 名）
- ・指導協力 NPO 法人 どんころ野外学校

5 目的の達成指標（アウトプット）

- (1) 「普段の生活や考え方に関するアンケート」における事後数値の向上
- (2) 参加者の満足度

6 広報

事業の趣旨から一般募集は行っていない。交流の家では平成 26 年度から自立・生活支援キャンプを実施しているが、道内における同様の施設に広く体験活動の場を提供する観点から、これまで実施対象とした施設以外で新たに実施を希望する施設と協議を行い、対象を決定した。

なお、当初小学校 3 年生以上を対象としていたが、対象施設内で募集した結果参加希望者が少なく、1・2 年生の児童の保護者からも参加希望があったため、対象施設と協議の上、1・2 年生も対象とした。

7 参加者人員・類型

参加者 12名（定員比 40%）

内訳：児童 小学校 6年生2名、4年生3名、3年生1名、2年生2名、1年生2名

引率者 2名

性別 男性6名、女性6名

9 事業日程・内容

(1) 日程（計画段階）

	6:30	7:15	7:30	8:30	8:45	9:15	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	13:00	14:00	15:00	15:30	16:00	17:00	17:30	19:00	20:00	21:00	22:00	
25 (土)	施設: 7:00 出発	バス移動(借上バス)				冬の森探検 (どんころ野外学校)				(昼 弁 食 当)	犬ぞり 体験	バス移動			交流の 家着	ゆい ずび あ た い ム	夕 食	読書活動 自由時間	入浴 休憩	就 寝				
26 (日)	生活 習慣 運 動	さ わ や か た い ム	朝 食	清 掃 点 検	交流の家・冬レクリエーションイベントに参加 そり遊び・バナポート体験・お菓子作り など				昼 食	冬レク レー シ ョ ン 参 加	交 流 の 家 発	施設着・解散												

(2) 概要・運営のポイント

体験活動の提供に基本を置き、まずは「楽しい野外活動」を体験することで、体験活動の楽しさを感じることに、自然や動植物への興味関心を持てるきっかけづくりとなるようにプログラムを組み立てた。

また、子供たちが日常の施設での生活の中で失われがちと考えられる、読書や、整理整頓の時間を確保することとした。

このため、交流の家到着後の夜の屋外活動を計画段階で読書・自由時間に変更し、また翌日の朝の活動開始も10時30分からとして時間に余裕を持たせ、交流の家での生活体験（友達と寝食を共にする楽しさ、早寝早起き朝ごはん、読書活動、使用した場所の整理整頓）の時間を確保し、自主・自立的な行動、友達と協力しての行動、整理整頓をやり遂げられるように、働きかけを行うこととした。

(3) 各プログラム内容

①冬の森探検（南富良野町・どんころ野外学校）（120分）

【指導協力：NPO法人どんころ野外学校】

冬季積雪期の自然体験活動として、スノーシューを履いての自然散策により、自然への畏敬の念や、不思議さを感じることに。また、ある程度の負荷を与えるものとして、低山への登頂により達成感を感じられるように計画した。

さらに、冬の森に生息する動物への興味関心を持たせるため、行きのバスの中で、動物の足跡に関するクイズを行うことで、期待を持たせるよう工夫した。

当日は雪交じりで時折風も強く、気温も低い中での活動となったが、初めてのスノーシューでのハイキング活動に、子供たちは戸惑いながらも楽しく活動していた。途中の道のりの中で、同行ガイドから樹木や鳥、野生動物の痕跡の



話を聞きながら、自然に触れ、自然の不思議さを実感していた。

登頂の後は、ホットドリンクやおやつでの休憩をはさみ、雪の斜面を尻すべり遊びをしながらの下山となり、子供たちからは歓声が上がり、雪にまみれながら雪上活動を楽しむ姿が見られた。

低学年の子供は、ガイドから教えられた「ノリウツギ」の枝などを拾い、大切そうに抱え「お母さんへのお土産にする」と楽しそうに語っていたのが印象的であった。



②犬ぞり体験（120分）

動物と触れ合い、訓練された動物が提供してくれる体験を通じて、動物との共生について考えさせるものとして、本プログラムを計画した。

犬ぞりも子供たちにとっては初体験であり、緊張の面持ちで犬たちとの直接の触れ合いタイム、そして準備作業としてハーネスを犬に取り付ける作業を体験した。

その後、2班に分かれて全長1.5kmのコースを交替で犬ぞり搭乗を体験した。予想以上のそのりのスピードに、子供たちは驚きながらも、そりを引いている犬を応援しながら、楽しそうに体験していた。



③大雪冬のレクスポートの祭典参加（240分）

2日目は「大雪冬のレクスポートの祭典」に参加した。

参加にあたっては、全員を2班に分けて、子供たちが自主的に考え相談しながら、ブース巡りを決められるように配慮した。

冬の屋外体験活動（チュービング、バナナボート体験、屋外遊びりんピック等）及び室内活動（クラフト体験、餅つき体験）などの体験ブースのほぼすべてを体験し、楽しむ姿が見られた。

ブースを回るにあたっては、班内での意見衝突も見られたが、相談し相手の意見を尊重しながらグループとしての意見に従う場面も見られた。



9-1 参加者アンケートから（子供）

（1）総合的満足度

・満足 10 100.0%

（参加者の声）

○とてもよかった

○楽しかった

○おもしろかった

（2）プログラム

・満足 9 90.0%

・やや満足 1 10.0%

(参加者の声)

- 最高
- 楽しかった

(3) 事業運営

- ・満足 8 80.0%
- ・やや満足 2 20.0%

(4) 職員の対応

- ・満足 8 80.0%
- ・やや満足 2 20.0%

(参加者の声)

- 良かった

(5) 自由記述欄

- どんころ野外学校の活動が楽しかった
- レクスポーツをたくさんできて楽しかったです
- いろんなことがあったり、楽しいことがあって楽しかったです
- またキャンプがしたい！
- 犬ぞりがこんなにはやいんだなと思った

9-2 引率者アンケートから

1. 事業が始まる前の子どもたちの様子で、お気づきになったことがあれば教えてください。

- 好奇心が強い。
- 自分の意見、意思を出せる。
- 人の話を聞かない。
- すぐに喧嘩になる。
- 予想はしていましたが、行きのバスの中では「ラフティングが良かった～」等、参加に対してネガティブな発言もありました。でもそれは、スノーシューや犬ぞりの経験がないこともあり、そのような発言があったのだと思います。
- 行きのバスの中ではごみも散らかったままで、公共の場所や物を綺麗に使う意識が薄かったです。
- 人の話を聞くことが苦手な様子が見られました。

2. 事業を通して感じられた、子どもたちの変化（成果と課題）について教えてください。

- 普段は学年よりも幼い言動の子も、積極的に活動に取り組み、年下の子の世話をする姿があった。
- 普段他の子が喧嘩になるとはやし立てたり無関心だったりする子も仲裁に入ったりすることもあった。
- 山歩きなど、人の話を聞いていないと命の危険もある場所では現地スタッフの方も厳しく注意してくれて、子どもたちにとっては少しびくっとしたと思いますが、良い経験になったと思います。（●※しかし、人の話を聞くこと・言葉遣いはまだ苦手な子ばかりです。）
- 上の学年の子が下の学年の子の様子を気にかけてくれたり、6年生に布団の畳方のお手本などを任せられたりと安心しました。
- 普段家庭では、外に遊びに行かない子もいるため、体験を行う前は何をやるかわからず、文句を言っていた子もいたがやってみると、「もう一回やりたい」「帰りたくない」という子がいて良かったです。

○施設の掃除の際も、子どもたちのやる気が出る声かけをしてもらったこともあり、普段よりもきっちり掃除していました。戻ってからもこれが続くように、こちらも声掛けしていきたいです。

3. 交流の家と連携して行うことについて、良い点や難しさを感じられた点等について書いてください。

○トキワだけでは不可能な体験も、交流の家と連携することで体験させられる。職員だけでは勤務体制上十分な人数を配置できなくても、交流の家のスタッフやボランティアの協力を得ることで必要数を確保でき、活動の幅を広げることができる。

○職員も、犬ぞりやスノーシューは初めてで、交流の家のスタッフや現地スタッフの皆さんに頼りっぱなしだったと思います。

○私は今回が初参加だったのですが、子供たちと秋山さん、大津さん、平野さんは二回目ということで、温かい雰囲気の中で体験ができ、安心できました。ありがとうございました。

4. その他、ご意見やお気づきの点があれば、自由に書いてください。

○今年の夏もゆめ基金を利用して交流の家でキャンプを予定しています。よろしくをお願いします。

10 事業の成果

(1) 事業背景の達成度

1泊2日の短い日程での体験活動であったが、普段できない自然体験活動を提供することができ、参加者からも「良い経験をした」「楽しかった」などと満足度も高かったため、目標は達成できたと考えられる。

また、アンケートや子供たちからの聞き取りでも「また交流の家にくるよ！」との声が多く、交流の家での体験が2回目ともなり、次回活動（平成29年7月末の交流の家での自己資金でのキャンプ活動が決まっている）への期待を持っている参加者が多かった。

この点では、体験活動や友達との生活体験の楽しさを十分に感じ、継続的な活動への期待を持たせられていると感じる。

(2) 普段の生活に関するアンケート結果

自立支援キャンプの達成度の成果指標の一つとして機構本部で実施した標記アンケートの結果は次のとおりとなった。

① 普段の生活習慣13項目

キャンプ前の質問において、「現状認識」では「必ずしている」「している」が78.21%であったが、キャンプ後の「意識」として、「とても思う」「思う」が97.40%と、19.20%上昇となり、意識の向上が見られた。

② 自分の性格（積極的な行動）13項目

キャンプ前の質問において、「現状認識」では「とても当てはまる」「当てはまる」が91.03%であったが、キャンプ後の「意識」として、「とても思う」「思う」が92.21%と、わずかではあるが、1.18%上昇となった。

③ 自己肯定感

キャンプ前の質問において、「現状認識」では「どれくらいあてはまるか」の設問に対し、「とても当てはまる」「当てはまる」が55.56%であったが、キャンプ後の「意識」として「とても思う」「思う」が50.0%と、逆に5.56%低下した。

以上の結果から、短い期間の体験であっても、活動直後は生活習慣の改善への意識や、自分の生活について意識の向上が見られるが、自己肯定感では低下がみられ、不安定な状況にあることも感じ取られる。

<事業の指標に関する達成度>

- (1) 「普段の生活や考え方に関するアンケート」の事後数値の向上
前記のとおり
- (2) 参加者の満足度 100%

1 1 事業の課題

(1) 参加対象者

今後の課題として、今回の事業は当初親子での参加を検討していたが、施設との事前打ち合わせの段階において、親の参加が見込めないため子供のみでの参加とした経緯がある。親は仕事の都合などから参加が難しい事情もあると考えられるが、今後親子での参加を可能とすることや、家庭の中での継続的な体験活動の実施を促す支援として、親への体験活動の重要性についての働きかけ（親世代は日帰りで可能とするなど）を行い、親子での体験活動の場面を設定することで感動を共有していただくことを実現できるように、事業日程や内容を検討する必要がある。

(2) 事業プログラム内容

ダイナミックな自然体験活動として、夏のラフティング活動に続き、冬の森探検・犬ぞり体験を導入したが、遠方でもあり移動に時間がかかることから、1泊2日では他の活動時間に制限が出てしまう問題がある。

来年度以降の自立支援キャンプでは、交流の家敷地内などのフィールドを使用したプログラム展開を行うことで、悪天候時の避難場所や、代替プログラムの展開も可能となるため、今後、新たな野外活動プログラムの開発も含め、内容を検討する必要があると考える。

